

マガモ,オナガガモおよびミヤマガラスの渡り衛星追跡

平岡恵美子¹・植田睦之²・時田賢一³・藤田祐樹¹・高木憲太郎²・内田聖⁴

藤田剛¹・堤 朗・樋口広芳¹

(¹東大・農・生物多様性,²NPO 法人パードリサーチ,³我孫子市鳥の博物館,⁴里山自然史研究会)

渡り鳥の移動は、鳥インフルエンザなどの感染症の伝播に関与する可能性があり、渡り鳥類の移動経路の解明は、感染症の発生と伝播を予測するための重要な基礎資料となる。そこで、感染症伝播に関わる可能性のあるカモ類およびミヤマガラスを対象に、越冬地周辺から繁殖地への移動経路を明らかにすることを目的として、衛星追跡を行った。

カモ類の追跡

捕獲は2006年1月、埼玉県越谷市の宮内庁埼玉鴨場で行われ、マガモ6個体、オナガガモ4個体に、太陽電池式2台、通常電池式3台、GPS/ARGOS式送信機5台を装着した。GPS/ARGOS式送信機を装着したマガモ2個体、オナガガモ1個体は、長距離移動を開始する前に受信不能となったが、大部分は順調に追跡できた。2月中旬から長距離移動を開始する個体が見られ、移動の開始時期と移動経路は、個体によってかなり異なっていた。

マガモ1個体(太陽電池式)は、4月16日から70km程北西の利根川流域に移動、20日ほど滞在して、5月4日に一気にロシアまで約1000kmを渡った。もう1個体(太陽電池式)は、3月6日から北上を開始、猪苗代湖、最上川流域、秋田、北海道の各地を1,2週間ずつ滞在しながら北上し、4月29日に約600kmを移動しロシアに渡った。GPS/ARGOS式送信機を装着したマガモ1個体は、4月11日に100km程北上、今市市に約3週間滞在したのち5月5日から現在まで新潟県五泉市に滞在している。別のマガモ1個体(GPS/ARGOS式)は、2月26日に北上開始、栃木、福島を経て、最上川流域まで移動した。4月8日に能登半島北西約300kmの海上で受信のあと、琵琶湖まで南下し4月11日から約3週間滞在、5月5日に再び能登半島よりロシアまで約800kmを渡った。

通常電池式送信機を装着した3個体のオナガガモのうち、1個体は、3月20日に岩手県に移動したのち、青森、北海道と1週間前後滞在しながら北上した。5月6日に樺太を北上、8日に一気にカムチャツカ半島まで約1000kmを渡り、5日前後滞在しながら移動を続けたが、6月18日を最後に受信不能となった。1個体は、2月16日から北上を開始、猪苗代湖、最上川流域、北海道と10~20日前後滞在しながら北上を続け、5月9日に一気にカムチャツカ半島まで約1800kmを渡り、5日前後滞在しながら移動を続けたが、6月11日を最後に受信不能となった。1個体は、2月21日に福島県まで移動が確認されたのち受信不能となった。

ミヤマガラスの追跡

捕獲は2006年1月、秋田県大潟村八郎潟干拓地において行い、5個体に太陽電池式送信機を装着した。そのうち3個体については3月末までに受信不能となったが、2個体については、海外までの移動経路を特定することができた。1個体は、3月27日より北上開始、北海道を経由して4月5日にロシアに渡り、北上を続け、4月20日以降、ロシアのブラゴエチェンスク近くのアムール川流域に滞在している。もう1個体は、3月23日に秋田県からロシアに渡り、北上を続け、4月20日以降、中国黒竜江省三江平原付近に滞在している。